

令和元年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 札幌地区
- 2 事例報告学校名 : 札幌市立手稲中央小学校
- 3 報告者 : 校長 白崎 正
- 4 キーワード : 地域と共に歩む伝統校の教育力を活かした社会に開かれた教育活動

I はじめに

本校は明治17年、開拓者のために作られた開心社の事務所を校舎に、「下手稲小学校」として開校。以来135年で、1万2千人余りの卒業生を輩出してきた手稲の歴史と共に歩む学校です。立地は旧国道5号線に接し、校区内には、一日の乗降者数が札幌駅に次いで全道2位という手稲駅、また、札幌オリンピックの会場、サッポロテイネスキー場があります。現在、札幌市手稲区には、16の小学校がありますが、一つを除いて全ての小学校が、本校の子学校や孫学校になります。現在、児童数は652名。生活科や総合的な学習の時間における地域人材、環境の活用、PTA活動はもちろん、おやじの会やサタデースクールも充実しています。平成30年度は、のべ422名の学習ボランティアが、校外学習やスキー学習等、さまざまな活動を支援してくださいました。歴史と伝統に支えられた深い地域との関わりが、教育課程に位置付くことは元より、教育課程を超え、地域コミュニティの中核としての役割を担う、信頼される学校づくりを行なっています。

II 地域の人材、環境を生かした具体的な取組

1 「課題探究型の授業」のための地域との連携

(1) 手稲溪仁会病院との連携

昨年度から6年生の総合的な学習の時間（以下、総合）「プロに学ぶ」の一環として、手稲溪仁会病院と連携して「がん教育」を取り入れました。自分の体はもちろん、家族の健康を見つめ直す学習となりました。

今年度は、「健康教育」として、本校の教育研究発表会においても提案しました。参会者からは、「地域の総合病院と連携し、全面的な協力を得て、命と健康を大切にする学習内容が素晴らしい」とのご意見をいただきました。



医師の話聞く活動

(2) 地域の福祉にかかわる施設との連携

4年生の総合では、社会福祉協議会と連携して、地域のさまざまな施設を福祉の視点で見つめる活動を行なっています。アイマスクや車椅子体験を通して、JR手稲駅やその周辺の施設が、本当に利用者にやさしい施設になっているかを調査・検証し、よりよいまちづくりを提案する発信型の学びです。



アイマスク体験

5年生の総合では、地域の介護福祉施設と連携して、実際の介護現場を訪問、体験することを通して、利用者の方の実際の生活についての理解を深める学習を行なっています。障がいの有無にかかわらず、年を重ねることで福祉が必要になることを自覚する学びになっています。

(3) 地域行政にかかわる奉仕活動

6年生の特別活動では、手稲土木センターと連携し、駅前ロータリー花壇の整備を行なっています。種まき、苗づくり、移植作業を通して、奉仕の心を育てています。



ウェルカムフラワー事業（手稲駅前の花壇）

2 サタデースクールを基盤に地域の人材を活用した、多様な学びの場の提供

(1) お琴教室（地域人材を生かして 今年度で3回目）

生田流箏教授である田中貴世子先生（本校同窓生）のご好意で、土曜日と夏季休業日に全5回の「お琴教室」を行ないました。弟子入りした18名の子どもたちは、爪弾けるようになった「さくら」など数曲を、2学期の始業式に全校児童の前で発表。日本の伝統楽器のよさや演奏する楽しさを実感することができました。



お琴教室

(2) 手稲山探検隊（地域人材を生かして 今年度初）

学校評議員であり、手稲山の環境を守る「やまなみ手稲」会長でもある、濱谷義昭さんのご好意で、校区の手稲山の魅力を体験する歩行距離6キロの手稲山麓ハイキングを、「やまなみ手稲」の皆さんと共に夏季休業日に行ないました。森の中では、動物の痕跡や生息する植物や昆虫についての説明を交えながら、ふるさと手稲山の宝物を発見する楽しさを実感することができました。



(3) その他、バラエティに富む活動内容

その他、走り方教室、投げ方教室、サマーキャンプ、雪山スキー、スノーシュー体験等の体育的活動、長期休業中の学習支援、読み聞かせ、大型カルタ大会、モビールづくり、書初め大会等の文化的活動等、活動内容はバラエティ豊かです。サタデースクール事業を機に学校に関わってくださる方が増え、土曜の枠を越えて、長期休業中や授業のボランティアとして、実質100名を超える地域人材（保護者以外）に支えられています。「地域で、地域の学校の子どもを育てる」という強く温かな関係が築かれています。

3 子どものために、学校のためにという地域の熱い思い

(1) 「手稲中央おやじの会」との連携

「子を愛し、子を守り、子から愛される親父になる」を目的に運動会での「朝の交通整理」、PTA行事での「ジャンボだるま落とし」、サタデースクールでの「走り方教室」「ドッジボール大会、餅つき」等、熱い気持ちで「みんなの子をみんなで愛す」活動をしてくださる、大変頼もしい学校の応援団です。



ドッジボール大会案内ちらし

(2) 「ふるさと軽川街づくり協議会」との連携

毎年、8月の第一土曜日に、本校グラウンドにおいて、子ども盆踊り、大型紙芝居、打ち上げ花火が盛大に行なわれます。地区の青少年育成委員会がバックアップする総勢300名の一大行事になっており、子どもも大人も大変楽しみにしています。

III おわりに

本校に関わる地域ボランティアには、60～70歳の方が大変多いです。来る超高齢化社会では、定年後の生き甲斐として学校に関わりたいという人材は豊富です。学校は、教育課程のどこに、何が、どのように位置付くのかをしっかりとマネジメントすることが必要です。働き方改革の時代、それにかかわる連絡等の業務も付随しますが、教育課程外の活動については、担任教諭の負担はありません。管理職が学校の顔として、地域とのつながりを大切にし、地域に感謝することを忘れずに、地域に愛される学校として伝統の襷をリレーする、今後もそうありたいと考えます。